

2019 4/9

No.2088

毎月第2・第4火曜日発行

政経かながわ

一般社団法人
—神奈川政経懇話会—



室内安全や所願成就を祈って山伏が燃え盛る炎の上を歩く「火渡り」の伝統行事が3月28日、愛川町八菅山（はすげさん）の八菅神社で行われた。



contents

視点・点描 3

黒潮が秘める可能性

農業 4

転換期を迎えた食料・農業・農村

キーワードは「持続可能性」

経済 8

「敗北」の時代を超えて

小林氏、「Japan2.0」を提言

くらし2019 10

「誰かのためにになりたい」

企業最前線 12

全固体電池、知っていますか？

次世代電池の本命

アジアの風 14

1970年代の影

NNAアジア経済リポート 15

事務局だより

◇2019年4月定例講演会

4月22日(月)午後1時30分～
3時

ロイヤルホールヨコハマ5階「リ
ビエラの間」

講師は政治評論家の有馬晴海
さん

演題は「安倍1強と改憲議論～
統一地方選から参院選へ～」

◇2019年5月定例講演会

5月29日(水)午後1時30分～
3時

ホテル横浜キャメロットジャ
パン4階「フェアウインドⅠ」

講師は日本総合研究所副理事
長の湯元健治さん

演題は「消費増税を乗り切る
企業の成長戦略」

【お知らせ】神奈川政経懇話会では
ホームページ(www.kanagawa-seikon.jp)に会員コーナーを設け
ました。新商品の紹介、地域貢
献活動、人事などジャンルを問わ
ずさまざまな情報を掲載します。
問い合わせは事務局☎045(226)
2121。

視点



黒潮が秘める可能性

日本の沿岸を流れる黒潮は、世界有数の強い海流だ。これを貴重な資源と捉え、再生可能エネルギーとして活用する水中浮遊式海流発電システムの開発が横浜で進んでいる。

IHI（東京都江東区）が同社横浜事業所（横浜市磯子区）を拠点に取り組んでおり、実証機「かりゆう」は全長、全幅とも約20メートル、高さ約6メートル。水深100メートルの水圧に耐えられる機体に浮力調整装置や2基の発電機を備える。海底に設置した重りから係留索（ロープ）でつながれて「たこ揚げ」のように海中に浮遊し、黒潮の流れで左右2基のタービン翼を回して発電する仕組みだ。

2017年8月には、鹿児島県口之島約5キロの沖合で世界初となる実証試験を行い、最大30キロワットの発電に成功。実用化に向けて大きく前進した。

海流発電の設備利用率（発電設備の実際の発電量が定格出力で発電した場合に占める割合）は50～70%。太陽光発電（一戸建て）12%、風力（陸上）20%、同（洋上）30%といった変動の大きい再生可能エネルギーと比べて高い。

安定した発電が可能な上、同社の試算では黒潮には数千基の設置スペースがあると見込まれ、将来的な日本の再生可能エネルギー源の一つとして非常に有望だ。

事業化の目標は21年度以降。「かりゆう」は今夏、口之島沖で再び実証試験を行い、今度は1年間の長期にわたって信頼性を検証する予定になっている。

一方、こうした大手企業でなくとも、独自技術を生かし、海洋分野で活躍する中小企業がある。

吉田 勝行

（神奈川新聞社経済部長）

る実証試験を行い、最大30キロワットの発電に成功。実用化に向けて大きく前進した。

海洋研究開発機構（横須賀市）と共同で、世界で初めて水深4千メートルの海水温や塩分濃度を測定する装置を実用化した鶴見精機（横浜市鶴見区）の社長は「中小は小回りがきく。大手が手を出しにくいい分野をやり、隙間を埋めるのがわれわれの義務」と力を込める。

セア・プラス（同市緑区）は従業員24人ながら、超音波で海底の3次元データを取得する音響測探機を駆使。岸壁の水深や海岸の砂の堆積・浸食といった「目に見えない部分」の調査を手掛ける。

精密な海底地形図の作成など3次元データの解析や処理で高い技術を有し、ヤマハ発動機（静岡県）の無人小型電動観測艇「BREEZE 10」の開発で技術協力した。

中小企業の事業展開でも、海は未知なる可能性を秘めている。

（神奈川新聞社経済部長）